13　川村曼舟　阿里山の五月　一幅

昭和八年（一九三三）　絹本着色

本紙七一・〇×八六・七

昭和八年の第三十四回早苗会展に「台湾所見」の名で出品した一対（「阿里山」「嘉義近郊」）の内、単独の作品としてあらためて第十四回帝展に出品し、宮内省によって買い上げられた作品。阿里山は現在台湾の国家風景区に指定されている名勝地である。

川村曼舟（一八八〇～一九四二）は山元春挙に師事し、風景画とくに山岳を描くことを得意とした師の影響を強く受けて、日本各地の景勝地を頻繁に描いた。本図も早苗会展出品時に「春挙エスプリ」と評されたように、背後の山の深遠さを強調するために前景に大きく木々を描き、さらに小さく人物を点景として配する点などは山元の手法を踏襲している。ただ山元が明快で鮮やかな色彩を多用したのに比べると、川村はやや落ち着いた色調を特徴とし、本図でも緑青の色味が初夏の爽やかな気候を感じさせる。本図制作の昭和八年には山元が没してしまい、川村はその跡を継いで早苗会の主宰者となって会を牽引した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸
三の丸尚蔵館展覧会図録No.50

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections